









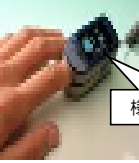
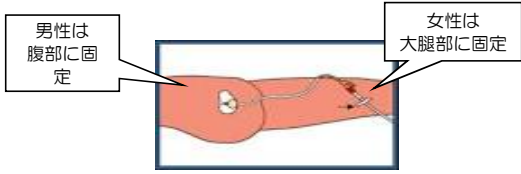
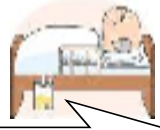

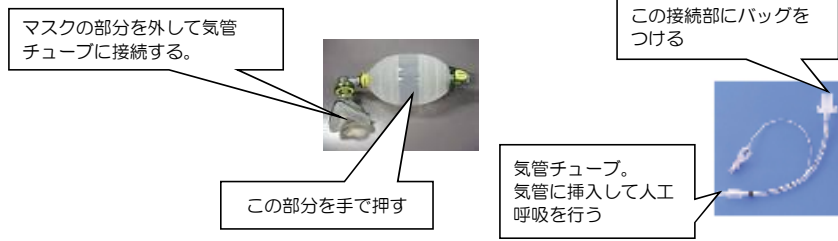
## 在宅医療用語集（ケアポイント含む）

行	用語	解	釈	
あ	アセスメント	事前評価、初期評価のこと。介護サービス利用者の身体機能や環境などを事前に把握、評価することで、ケアプランの作成等、今後のケアに必要な見通しをたてるために必要な評価を指す。		
	アナフィラキシーショック	付記（ケアポイント）	ハチ毒や食物、薬物などが原因で起こる、急性アレルギー反応のひとつ。じんましんや紅潮（皮膚が赤くなること）などの皮膚症状や、ときに呼吸困難、めまい、意識障害などの症状を伴うことがある。血圧低下などの血液循環の異常が急激に現れると、ショック症状を引き起こし、生命をおびやかすような危険な状態に陥ることもある。これをアナフィラキシーショックという。 薬品（抗生物質など）・食事（そば、マンゴー、キウイ、ゴムなど南洋系の果実や植物など）のアレルギーの有無を確認しておきましょう。食直後にヒューヒューと言いつつ呼吸困難が起きたら、窒息以外ならこの事を疑って救急要請！	
	アンブタ（アンブテーション）	付記（ケアポイント）	（四肢の）切断、切除術をいう。例えば、下肢に“がん”ができ、転移がある場合は膝下もしくは股関節部で足を切断する。また、糖尿病性神経障害で、指先が壊死（腐る）してきた場合などにも行われる。 糖尿病患者は無症状で病気が進行することがある！爪きり時、深爪に注意！靴ずれに注意！水虫に注意！常に足はきれいに洗って観察をしましょう！ “たかがキズ、されどキズ”です。糖尿病の人は要注意！	
	意思伝達装置	障害により、音声による会話ができなくなった場合に使用する機器。色々なスイッチを工夫して入力することにより、アイウエオ表から文字を指定して言葉をつくって会話をします。		
	移乗動作	付記（ケアポイント）	ベッドから車イスに、ベッドからポータブルトイレに移るなどの乗り移りの動作のこと。 別名トランスファー	
	イルリガートル		高圧洗腸・洗腸（人工肛門）・膣洗浄などに用いる医療器具。栄養剤・微温湯・薬液を入れる容器でゴム管とコネクター部からなる。在宅では栄養剤注入目的が主である。 近年は、栄養剤が入ったパック式が多く出回っていて、余り使用されていません。	
	イレウス（腸閉塞）	付記（ケアポイント）	腸内容の通過障害が何らかの原因により起こり、腸液、ガス、糞便などが腸内腔に充満し、排便や排ガスがなくなり、腹痛・嘔吐・腹部膨満などの症状が出る。 ショック状態（冷汗、蒼白い顔、脈が弱いなど）になったら、生命の危険を伴うことがあり緊急手術が必要になることもある！救急車要請！	
	胃ろう造設術（PEG：ペグ）	付記（ケアポイント）	主に経口摂取が困難な患者さんに対して、人為的に皮膚と胃に瘻孔（ろうこう）を作成（皮膚から直接胃につながる穴を作成）、チューブを留置し、栄養・薬・水分を注入するために行う。 穴（ピアスの穴と同じ）が完成するには約1ヶ月かかります。1ヶ月前に抜けたら、すぐ病院へ受診！1ヵ月経過後に抜けた場合は、穴にカテーテル（家族が持っている）をすぐ入れないと閉じてしまい、再手術が必要になってきます！入れる方法は家族に指導がされています。	
	インテーク	援助においての初めての相談のこと。		
	インフォーマルサービス	行政が直接・間接的に提供するサービスでは充足されない隠れたニーズに対応するサービスのこと。対義語はフォーマルサービス。		
	エバリュエーション	事後評価のこと。介護サービス終了時や一段落した時に、今までの過程や効果を判定し、新たな課題や今後の方針などを利用者や提供者がともに検討することをいう。		
	嚥下障害	食べ物・飲み物や唾液を飲み込むことが困難になること。食物が摂取できなくなると唾液の分泌も少なく、自浄作用（自身できれいにする力）の低下を招き、口中の細菌が繁殖しやすくなっていく。結果、寝たきりや麻痺のある人などは、唾液とともに細菌が気管へ入って誤嚥性肺炎を起こすことがある。嚥下障害者（高齢者含む）に対しては口腔ケアが肺炎予防になる。 *別紙、「摂食・嚥下障害の確認用紙」でスクリーニング、必要時専門医受診。		
	往診	患者さんの求めに応じて、急変時に訪問して行う診察。		
か	介護保険制度	40歳以上の方が介護保険料を支払い、その保険料を財源として、介護が必要となった人たちに介護サービスを提供する制度。サービスを受けることができるのは、65歳以上で介護の必要な方、または40～64歳で特定の疾病によって介護が必要な方が対象。各市町村に介護保険に関する窓口がある。		

<p>化学療法（悪性腫瘍） （俗に：ケモ）</p>	<p>がんの化学療法に抗がん剤がある。がん細胞に直接または間接的に作用して、がん細胞の増殖を抑制し、死滅させる薬剤。投与方法は、直接血管内に抗がん剤を投与する点滴による静脈注射と錠剤の飲み薬がある。抗がん剤は、がん細胞だけでなく、正常細胞のうちでも細胞分裂の早い細胞にもその毒性影響を及ぼすため、白血球減少・脱毛・吐き気などの副作用を起こす。</p> <p>付記（ケホ・イト） 悪性腫瘍以外に、感染症、自己免疫疾患の治療にも用いられます。</p>
<p>カニューレ</p>	<p>体腔内に挿入するチューブ類の総称で、薬液の注入や体液の排出、気管切開の際の空気の通路とする場合などに用いるパイプ状の医療器具のこと。</p> <p>付記（ケホ・イト） 在宅では、気管カニューレ（カフの項目参照）、酸素カニューレ（在宅酸素療法の項目参照）を使用している利用者が多い。</p>
<p>カフ</p>	<p>気管カニューレが外れないように、気管とカニューレの管との隙間を埋めるためのドーナツ状のパッキング。風船のように、空気（エア）の調整で隙間ができないように、あるいは簡単に抜けないように生体にフィットさせる。</p> <div data-bbox="874 577 1177 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>カフの部分。 気管とカニューレに隙間ができないようにエアを入れて風船状にしている。圧が強すぎても、低すぎても弊害が起きる。</p> </div>  <p>付記（ケホ・イト） 空気量（圧）は多すぎても、風船が圧迫している場所の血流障害が発生、壊死（腐る）することがある。少なすぎても唾液が気管に入り肺炎を起こす場合もある。カフが動いて同じ場所に摩擦が加わると潰瘍（ただれ・傷）になる場合がある。カフなしの気管カニューレもある。</p> <div data-bbox="1054 943 1193 976" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>カフなし</p> </div> 
<p>緩和ケア</p>	<p>完全な治癒が望めない患者さんに対して、生命の持続よりも、身体的な痛みや精神的な苦痛を和らげることに重点をおいた医療。</p> <p>付記（ケホ・イト） 末期がん患者などに対して行われるが、全人的（身体・（社会）・心理・経済など様々な視点から人間を捉える）苦痛を緩和するのが最大の目的。</p>
<p>気管切開 （俗に：気切）</p>	<p>通常、口・鼻から呼吸をすることができなくなった時（病気の進行、気管内挿管の長期化など）、肺に空気を送ったり痰を吸引するために、喉の位置を切開して気管に穴を開ける手術をし、開口部にカニューレを装着する。</p> <p>*永久気管孔もあるが、切開とは異なり手術によって喉頭を取り除いた場合に、気管を首に開放する手術がされている。カニューレはないが、孔への異物の進入防止、加湿目的のためのエブロンなどの使用が必要。</p> <p>付記（ケホ・イト）</p> <div data-bbox="927 1480 1161 1536" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>気管切開部に、カニューレが入っている状態</p> </div> 
<p>喀痰吸引 （俗に：きゅうたん）</p>	<p>咳とともに吐き出される痰のことを喀痰といい、その痰を機械によって吸引する行為をいう。例えば、神経難病であるALS（筋萎縮性側索硬化症）患者さんは、自分の唾液の飲み込みができず痰を吐き出せないため、人工呼吸器を装着した場合には30分に1度程度の割合で喀痰吸引を行わなければならないとされているが個々で違う。</p> <p>付記（ケホ・イト） 介護職員等が喀痰吸引を実施するには、登録研修機関で研修を受けたのち認定証の交付がある。その後、所属する事業所が登録届けを提出し、始めて介護職員による喀痰吸引が可能となります。</p>
<p>球麻痺</p>	<p>延髄の脳神経が障害され、食べ物をかんだり飲んだりすることや発声・発語に障害をきたす。</p> <div data-bbox="991 1832 1294 2040" style="text-align: center;">  <p>小脳 大脳 脊髄 延髄 橋 中脳 間脳</p> </div> <p>付記（ケホ・イト） 代表的な病気には、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症があります。</p>

居宅介護支援事業所	ケアマネジャー（介護支援専門員）によるケアプランの作成や、介護事業者との連絡調整・紹介などを行うサービスを行う窓口である。介護保険法に基づき、中立公平な立場で利用者や家族を支援する。	
グリーフケア	身近な人と死別して悲嘆に暮れる人が、その悲しみから立ち直れるよう傍らにいて支援すること。相手に寄り添う姿勢が大切である。グリーフとは、深い悲しみという意味。	
ケアマネジメント	医療福祉分野で使われる用語で、医療と福祉などのサービスと、それを必要とする人のニーズをつなぐ手法のことを指す。ケアマネジメントを行う従事者をケアマネジャー（介護支援専門員）と呼ぶ。	
ケアマネジャー（CM）	介護保険法において、要介護認定を受けた人からの相談を受けて、居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、医療・介護・福祉の事業者等と連絡、調整等を取りまとめる者。正式名称は介護支援専門員。通称ケアマネジャー。略称ケアマネ。	
ケースカンファレンス	事例検討会のこと。サービス提供に関わっている職種が集まって、実際にあった事例を用いて検討する会議のこと。	
経管経腸栄養 （胃瘻・腸瘻・食道瘻）	<p>口から食べられなくなった患者さんに対し消化管に管を留置し栄養を摂る方法。鼻から管を通す経鼻栄養や胃と腹壁に穴を開けて管を通す胃ろうなどがある。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>経鼻栄養。 チューブによる鼻の潰瘍（創）に注意！ 胃内容物の口への逆流による誤嚥性肺炎に注意！</p> </div>  </div> <p><b>付記（ケアポイント）</b> 腸は外界からの病原体の進入を食い止める最大の免疫器官といわれています。腸管を使用しなければ免疫細胞は萎縮して役割を果たすことができなくなります。免疫力(自分で自分を守る力)を維持するためには、腸から栄養を吸収することが重要になってきます。在宅で遭遇するケースは、経鼻・胃瘻からの栄養が主体になってきます。</p>	
構音障害	<p>言葉を発するための発音に必要な、舌、唇、頬、歯などの動きが悪く、ろれつが回っていないこと。</p> <p><b>付記（ケアポイント）</b> 脳血管障害の後遺症の一つ。</p>	
抗がん剤	がん細胞に直接または間接的に作用して、がん細胞の増殖を抑制し、死滅させる薬剤。投与方法は、直接血管内に抗がん剤を投与する点滴による静脈注射と錠剤の飲み薬がある。抗がん剤は、がん細胞だけでなく、正常細胞のうちでも細胞分裂の早い細胞にもその毒性影響を及ぼすため、白血球減少・脱毛・吐き気などの副作用を起こす。	
誤嚥性肺炎	<p>脳卒中や全身麻痺、あるいは麻痺などの症状のない脳梗塞において、神経伝達物質の欠乏によって、咳反射や嚥下反射の神経活動が低下して起こる。知らない間に細菌が唾液とともに肺に流れ込み、この細菌が肺の中で増殖して肺炎となる。また、胃液などの消化液が食べ物とともに食道を逆流して肺に流れ込むことで起こる場合もある。</p> <p><b>付記（ケアポイント）</b> 口腔ケアは、誤嚥性肺炎予防で最も重要であると言われています。効果的な口腔ケアの手技をマスターしておきましょう。</p>	
コミュニティケア	高齢者や障がいのある人など、生活問題を抱えたさまざまな人が、可能な限り施設に入所せず「地域」で暮らすことができるように、在宅でサービスを提供すること。	
さ	サービス担当者会議	ケアマネジャーが、ケアプランの作成や変更を行う際に、サービスを利用する本人やその家族、サービス事業者などが一堂に会して、話し合いの場を持つこと。開催の連絡調整や会議の司会進行、利用者への説明や記録などもケアマネジャーが担当する。話し合った内容から、新しいケアプランの基で介護サービス等を受けることとなる。カンファレンスやケアカンファレンスと呼ぶこともある。
	在宅医療	身体の状態や疾患等の理由により、通院が困難となった患者さんの自宅や老人施設に、医師等の医療者が訪問をして医療（定期的な訪問診療と、急変時の往診）を行うこと。在宅医療を受ける頻度の高い疾患は、脳血管障害・認知症・神経障害。
	在宅酸素療法（HOT）	<p>自宅で酸素療法をすることで、通称HOT（ホット）と呼ばれる。在宅酸素療法の目的は大別して二つあり、一つは酸素を吸入することで、呼吸困難を軽くし、生活活動の範囲を広げようとする目的。もう一つは、たとえ呼吸困難がなくても、慢性的な酸素不足のために、特に心臓を中心としたさまざまな内臓の働きに障害が生じることを予防する目的がある。</p> <p><b>付記（ケアポイント）</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>酸素カニューレ使用</p> </div> </div>

<p>在宅中心静脈栄養療法 (HPN)</p> 	<p>自宅で行う中心静脈栄養法 (高カロリー輸液) のこと。静脈栄養以外 (腸管大量切除、腸管機能不全) に、栄養維持が困難な人が適応。経口摂取が困難な場合でも、点滴だけで栄養状態を正常に維持でき、人体に必要なすべての栄養を補給する方法をいう。鎖骨の下・首・大腿の付け根の静脈からカテーテル (点滴用チューブ) を挿入し、中心静脈 (CV) の太い血管にカテーテルを留置し、中心静脈から高カロリー輸液 (IVH) を行う。</p> <p>付記 (ケアポイント) 腸を大量切除している人など、腸からの栄養吸収が不可能な人が対象。</p>
<p>在宅療養支援診療所 (在支診)</p>	<p>24時間365日体制で往診・訪問診療を実施する診療所をいう。在宅医療を推進するために、2006年に医療法の改正により新設された。</p>
<p>在宅療養支援病院 (在支病)</p>	<p>24時間365日体制で往診・訪問診療を行い、患者さんの在宅療養をサポートする病院をいう。在宅医療を推進するために、2006年に医療法の改正により新設された。</p>
<p>人工呼吸器</p>	<p>レスピレーターの項目参照。</p>
<p>ショートステイ</p>	<p>老人ホーム等に短期間入所して、食事・入浴・排泄など日常生活の援助を受けること。</p>
<p>褥瘡 (じょくそう) (俗に：ねだこ)</p>	<p>長期にわたって同じ体勢で寝たきり等になった場合、体と支持面との接触局所で血行が不全となって、周辺組織に壊死 (腐る) を起こすもの。床ずれとも呼ばれる。</p>
<p>成年後見制度</p>	<p>判断能力の不十分な者を保護するために、一定の場合に本人の行為能力を制限するとともに、本人のために法律行為を行い、または本人による法律行為を助ける者を選任する制度。申請窓口は、家庭裁判所。地域包括支援センターが相談窓口にもなっている。</p>
<p>セカンドオピニオン</p>	<p>患者さんが、検査や治療を受けるにあたり、主治医以外の医師に意見を求めることをいう。セカンドオピニオン外来を受診する場合は、診療ではなく、相談になるため、健康保険給付の対象とはならず、全額自己負担となる。</p>
<p>ターミナルケア</p>	<p>終末期医療および看護のこと。末期がんなど治療困難な患者などに対して主に延命を目的とするのではなく、身体的な痛みや精神的な苦痛を軽減することによって、生活の質 (QOL) を向上することに主眼が置かれ、緩和医療に加え、精神的側面を重視した総合的なケアを指す。ターミナルケアを専門に行う施設はホスピスとも呼ばれる。</p> <p>付記 (ケアポイント) ターミナル期とは、余命約6ヶ月以内とされ「あらゆる手段を尽くして治療しても治療に至らない状態で、患者にとって全人的にみて治療行為が不適切と思われる時期」と定義されています。</p>
<p>退院調整</p>	<p>退院後の在宅療養がスムーズにいくように、入院中から事前にサービスなどを調整すること。</p>
<p>退院前カンファレンス</p>	<p>患者さんが退院する少し前に、医師をはじめとする各職種と、患者さんや家族、ケアマネジャー等の介護関係職種が一堂に会して、現在の状態説明と、退院後も安心した生活が送れるように、介護サービスの利用調整等を話し合うことを指す。医療相談員 (MSW) が開催の連絡調整や司会進行を行うことが多い。</p>
<p>チアノーゼ</p>	<p>皮膚や粘膜が青紫色である状態をいう。一般に、血液中の酸素濃度が低下した際に、爪床や口唇周囲に現れやすい。但し、ヘモグロビンの量でチアノーゼは出現するため、元々ヘモグロビン量の低い貧血患者は発生しにくい。</p> 
<p>地域包括支援センター</p>	<p>地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメント等を総合的に行う機関。各市区町村に設置・民間に業務委託されている。2005年の介護保険法改正で制定された。</p>
<p>通所介護</p>	<p>要介護者が老人デイサービス事業を行う施設やデイサービスセンター等に通り、入浴・排泄・食事などの介護、生活についての相談、健康状態の確認、その他の必要な日常生活上の世話や機能訓練を受けるサービスを指す。通称デイサービス。</p>
<p>疼痛コントロール</p>	<p>主に、がんによる痛みに対して、個人個人にあった内服や外用薬、民間療法等の方法で、痛みを軽減できるように調節すること。</p>
<p>動脈血酸素飽和度 (SPO2)</p>	<p>血液中のヘモグロビンの何パーセントが酸素と結合しているかの値。97%以上が正常値といわれている。</p>

<p>動脈血酸素飽和度計 (パルスオキシメーター)</p>  <p>様々な形がある</p>	<p>指の動脈血の色の度合いによって測定する器械のこと。プローブを指先や耳などに付けて、侵襲なく（体に傷をつけない）脈拍と経皮的動脈血酸素飽和度（SP02）をモニターする医療機器のこと。</p> <p>付記（ケアポイント） 人工呼吸器や在宅酸素利用者は、常に酸素飽和度の監視が必要。中には、慢性的な肺の病気で常に酸素飽和度が低い人もいますが、高濃度の酸素投与は症状を増悪させることになります。何%の酸素飽和度を維持すれば良いのかは、医師の指示に従います。また、爪の状態（水虫など）で測定結果が信頼できない場合があります。</p>
<p>尿道カテーテル</p>	<p>尿道口から膀胱を通して導尿する目的で使用されるカテーテルのこと。前立腺肥大あるいは脊髄や末梢神経の障害、麻痺や薬剤の影響などで排尿が困難な患者さんの導尿（自己導尿含む）、手術や絶対安静時の導尿、残尿量の測定などの検査の目的で使用される。</p> <p>付記（ケアポイント） 寝たきりなどの場合には、長期留置のために、風船つきのカテーテルの使用になってくる場合があります。（次項、尿道留置カテーテルの項目参照）</p>
<p>尿道留置カテーテル (俗に：バルーン)</p>	<p>失禁等の排尿障害による褥瘡（床ずれ）や皮膚感染、前立腺肥大症や脳梗塞後遺症による直腸機能障害による尿路感染症や発熱などを防止するために、尿道にカテーテルを留置すること。</p>  <p>男性は腹部に固定 女性は大腿部に固定</p>  <p>チューブは、たわまず！ 折れ曲がらず！床につかない！</p> <p>付記（ケアポイント） 膀胱より高く上げないこと！チューブの折れ曲がりやたわみに注意する！陰部は便などで汚れたら石鹸とお湯で洗浄し常に清潔にする。 チューブは適切に固定(女性：中図、男性：左図)、男性の場合は尿道損傷・潰瘍（きず）の原因になります！ 基本は長期留置しないことです！</p>
<p>配食サービス</p>	<p>一人暮らしや高齢者世帯暮らしで、食事の準備・調理が困難である家庭に、定期的に栄養バランスのとれた食事を提供するサービスのこと。定期的に家庭を訪問するため、高齢者の孤独や不安の解消、状態観察、見守り支援の役割りを果たすこともできる。</p>
<p>廃用症候群</p>	<p>安静状態が長期に渡って続くことによって起こる、さまざまな心身の機能低下等を指す。病床で、寝たきりの状態であることによって起こる症状が多い。</p>
<p>バックバルブマスク (BVM)</p>  <p>【マスクによる人工呼吸】</p>	<p>手動式人工呼吸器のことで、バッグを手で押して肺に空気を送り込むための医療機器である。</p>  <p>マスクの部分を外して気管チューブに接続する。 この接続部にバッグをつける この部分を手で押す 気管チューブ。気管に挿入して人工呼吸を行う</p> <p>付記（ケアポイント） バックバルブマスクは、マスクで口と鼻を塞いで（左の図）手動的に人工呼吸をするために使用するものです。 気管チューブ(右の図)に接続する場合は、マスクを外して使用します。  *従来は、アンビューバッグと言っていましたが、これは商品名のことですバックバルブマスクが正しい。</p>
<p>フォーマルサービス</p>	<p>国や地方公共団体など公的機関が行う、法律などの制度に基づいた福祉や介護のサービスのこと。対義語はインフォーマルサービス。</p>
<p>福祉タクシー</p>	<p>車イスやベッドのままで乗れる装備のあるタクシー。</p>
<p>福祉用具</p>	<p>介護保険法では、心身機能が低下し、日常生活を営むのに支障がある要介護者・要支援者の日常生活上の便宜を図るための用具、及び機能訓練のための用具であって、日常生活の自立を助けるものと定義されている。福祉用具によって、購入商品と貸与商品に分かれている。</p>
<p>プライマリケア</p>	<p>身近にあって、何でも気軽に相談にのってくれる総合的な医療。町医者やかかりつけ病院のこと。</p>

	放射線療法 (俗に：ラジエーション)	外科手術、抗がん剤治療とともに、がんに対する主要な治療法の一つ。放射線が生物の細胞を攻撃する作用を利用しているが、この作用は細胞分裂の盛んな細胞に対して効果が大きく、分裂の盛んながん細胞により大きな影響を与える。放射線ががん細胞のみならず正常細胞にもダメージを与える一面があるものの、がん細胞はダメージに対する回復能力が乏しいため放射線の分割照射は、正常細胞がダメージから回復する時間を与えて行われ、ダメージから回復できないがん細胞だけを死滅させる。
	訪問栄養指導	医師の指示に基づいて患者さん宅を訪問し、療養上必要な栄養・食事についての助言や指導を行う。 付記(ケアポイント) 通院が困難な患者 530単位(特別食要件ある。施設入所者除く)
	訪問介護	ホームヘルパー等が自宅を訪問して、入浴・排泄・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活相談、助言、その他必要な日常生活上の世話をを行う。 付記(ケアポイント) がん・褥瘡の認定看護師同行：1285単位 退院前訪問指導：555点
	訪問看護	医師の指示に基づいて定期的に訪問をし、医療的処置・日常生活のケア・状態観察・家族への介護支援・助言や指導・メンタル面のフォロー等を行う。
	訪問歯科診療	患者さんの状態に応じて定期または随時訪問をし、義歯製作や調整・虫歯治療・歯周治療・口腔ケア・ブラッシング指導等を行う。 付記(ケアポイント) 口腔ケアは、通院が困難な患者(同一建物の場合は別点数) 訪問診療：850単位(一人に20分以上の診療)
	訪問歯科衛生指導	歯科医師の指示に基づいて、歯科衛生指導を行う。単なる歯磨き指導に留まらず、食事摂取が継続できるよう様々な助言や指導を行う。 付記(ケアポイント) 複雑360単位(1対1で20分以上かけた指導) (同一建物の場合は別単位)
	訪問診療	通院困難な患者さん宅や老人施設へ、定期的に訪問して行う診療。
	訪問入浴介護	移動入浴車で、家庭を訪問し、入浴の援助を行う。
	訪問薬剤指導	医師の指示に基づいて患者さん宅を訪問し、処方されている薬剤の管理や正しい服薬方法等の助言や指導を行う。 付記(ケアポイント) 退院時共同指導料：600単位 在宅調剤加算：10単位 在宅患者訪問薬剤管理指導：500単位(同一建物以外)
	訪問リハビリテーション	医師の指示に基づいて定期的に訪問をし、リハビリを提供する。単なる機能訓練に留まらず、在宅における生活の質の維持・向上を目指す。
	ホスピス	ターミナル(終末期)ケアを専門に行う施設、または在宅で行うターミナルケアのこと。 付記(ケアポイント) 在宅の場合は、痛み止めを上手に使いコントロールができる在宅医が必要。独居でも、“在宅にいたい”という強い思いと、様々なサービスを利用することによって可能。
	ホルモン療法	各種症状に対して、ホルモン剤あるいはホルモンの分泌を促進または抑制する薬剤を用いる治療法の総称。ホルモン療法は、がん細胞そのものを攻撃して殺す治療ではなく、あくまで発育を阻止してコントロールするのが特徴で、補助療法として手術や化学療法に併用されている
ま	看取り	無益な延命治療をすることなく、自然の過程で死に逝く人を見守るケアをすることで、家族と共に病人の傍らにいて看病をし、死期まで見守ること。病院での看取りは医療従事者が行うが、自宅での看取りは家族が行う。 付記(ケアポイント) 訪問診療を受けている利用者が、病気の経過で自宅で看取りを行うことは違法ではありません。医師法では、診療継続中の患者が、自宅で死亡した場合、24時間以内に診察をしていれば、異常がない限り死後診察を行わなくても死亡診断書の記載ができます。24時間を超えた場合でも、生前に診察をしていた傷病が死因と判定できれば死後診察を行えば死亡診断書はかけます。 最期の時が近いと判断した場合は、医師・訪問看護師に早めに情報提供をしましょう。目安は、別紙の「在宅での看取りを希望されるご家族の方へ」を参照してください。
	モニタリング	ケアマネジャーが、ケアプランに基づき実施したサービスについて、提供されたサービスが適切かどうか、計画に基づいて提供されているかなどを、利用者と提供者の双方から情報を収集する。継続的に観察・管理・評価して、必要時にはケアプランの見直しを行うこと。
や	要介護認定	日本の介護保険制度において、被保険者が介護を要する状態であることを、保険者である市町村が認定するもの。
	要介護度	被保険者の介護を必要とする度合い。軽い順に、要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5の7段階の介護度が設けられている。介護がどれだけ必要な状態なのかを、調査や主治医の意見をもとに決められている。
ら	ラジエーション	放射線療法の項目参照。

	レスパイト	レスパイトとは、一時延期や一時的中断、息抜き、小休憩といった意味を持つ。レスパイト入院とは、在宅で医療的管理をしている家族の介護休暇（息抜き）目的で、一時的に入院することを指す。
	レスピレーター (人工呼吸器)	呼吸が十分でないか停止している場合に、呼吸を助ける目的で用いられる器具や器械をいう。肺へ空気や酸素を送り、肺で交換された炭酸ガスを体外に取り除く機能を有している。 <b>付記 (カタ イト)</b> 国際的には、レスピレーターではなく、肺換気を目的とする機械という意味でベンチレーター（人工換気器）と呼ぶのが正しい。
A	ADL (エーディーエル)	日常生活動作のこと。日常生活動作とは、食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など、生活を営む上で不可欠な基本動作を指す。
	ALS (エーエルエス)	筋萎縮性側索硬化症。運動ニューロン（身体を動かすための神経系）が変性することで起こる病気。徐々に筋力が低下し、その進行は速く、嚥下障害や呼吸筋の障害が起こり、自力で呼吸ができなくなる。特定疾患（難病）に指定されている。
B	BP (ビーピー)	血圧。Blood Pressureの略。VSの項目参照。 <b>付記 (カタ イト)</b> 正常値はVSの項目参照
	BT (ビーティー)	体温。Body Temperatureの略。VSの項目参照。 <b>付記 (カタ イト)</b> 正常値はVSの項目参照
C	CCU (シーシーユー)	冠疾患(心臓の動脈に関連した病気)集中治療室
	COPD (シーオーピーディー)	慢性閉塞性肺疾患のこと。代表的な慢性呼吸器疾患の一つ。主に喫煙がきっかけになり、肺胞の破壊や気道炎症が起き、緩徐進行性および不可逆的に息切れが生じる疾患。通称「たばこ病」とも言われている。 <b>付記 (カタ イト)</b> 慢性気管支炎、肺気腫（はいきしゅ）、びまん性汎細気管支炎など、長期にわたり気道が閉塞状態になる病気の総称のこと。
	CPA (シーピーイー)	心臓と呼吸が止まった状態のこと。人工呼吸や心臓マッサージなど迅速な救命措置が必要。
	CPR (シーピーアール)	心肺蘇生法。（心臓マッサージ、気道確保、人工呼吸、除細動）CPAの時行う蘇生法。
D	DM (ディーエム)	糖尿病
F	f/u (フォローアップ)	経過観察。フォローアップの略。
	Fx (フラクチャー)	骨折
H	Hb (ヘモグロビン)	赤血球の大部分を占めている血色素のことである。酸素を体内の組織に運び、そこで二酸化炭素を受け取って肺に運んで離し、再び酸素と結びついて組織に運ぶ役割がある。ヘモグロビン量を調べることで、貧血の種類や性質が分かる。
	HDS-R	改定長谷川式知能評価スケールで、認知症のスクリーニング検査としてわが国で開発されたもの。満点は30点で、20点以下が痴呆、21点以上は非痴呆に分類される。
	HT (ハイパーテンション)	高血圧。Hypertensionの略。
I	IC (アイシー)	インフォームドコンセント。十分な情報の提供と説明による「理解」と「同意」のこと。医師が患者さんや家族に、病名・病状・診療の目的・治療方法の選択・費用等、内容の十分な説明を行い、患者さんや家族が納得・同意をした上で治療を進めていくことをいう。
	ICU (アイシーユー)	集中治療室のこと。高度な治療や容態管理を必要とする重病重態の患者を引き受ける場所。 <b>付記 (カタ イト)</b> HCUはハイケアユニットのことで準ICUともいわれる。
L	LK (エルケー)	肺がん
M	meta (メタ)	がんの転移のこと。がんの骨転移のことを骨meta (コツメタ) という。
	MK (Mca) (エムケー)	胃がん ドイツ語：マーゲンクレプス (MK) →胃がんの事 英語：キャンサー (Ca) →がんの事 <b>付記 (カタ イト)</b> マリグナンシー：悪性腫瘍
	MMK (エムエムケー)	乳がん
	MMSE (エムエムエスイー)	ミニメンタルステート検査の略で、認知障害の検出のために米国で考案された。日本では認知症診断の補助ツールとして活用されている。30点満点で11の質問からなり、見当識、記憶、計算、注意力、言語機能、構成能力についてみていく。27～30点が正常、22～26点で軽度認知障害の疑い、21点以下は認知症などの認知障害のある可能性が高いとされている。 <b>付記 (カタ イト)</b> 質問がプライドを創つける内容だと捉えられることもあるため、検査に対する理解（協力）を得ることが重要とされています。

	MRI (エムアールアイ)	磁石の原理で画像化するため被曝はしない。但し、空気を多く含む肺のような部位はCTの方が優れた画像が得られるため、全ての臓器や状態が適応とはいえない。CTと比較して、微細な構造まで観察が可能。コンピュータ処理 (MRA) による狭窄などの血管病変 (腫瘍、動脈瘤) も確認ができる。
		付記 (ケホイト) 磁場を利用するため、ペースメーカーや手術後に金具などが入っている人は検査ができません。刺青をしている方も火傷の原因になったりします。検査中の危険を避けるために、検査前にチェックすべき項目がたくさんあります。
	MRSA (エムアールエスエー)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌。通常、人の皮膚・鼻・喉・皮膚の表面には黄色ブドウ球菌が存在している。MRSAは薬剤耐性菌であるが、毒力は低く免疫力が通常にある人は感染しない。
		付記 (ケホイト) 医療従事者の多くはMRSAを持っているといわれています。しかし、防御力や抵抗力があれば容易に感染成立はしないので、過剰に不安になる必要はありません。重要なのは、介護者自身が自分を守ること、病原菌を利用者さんから、利用者さんに運ばないために、便など目に見える排泄物に触れる時は手袋着用の遵守！1処置1手洗いの遵守！を基本としましょう！
	MSW (エムエスダブルユー)	メディカル・ソーシャル・ワーカーの略で、医療ソーシャルワーカー、医療相談員のこと。保健医療分野におけるソーシャルワーカーであり、主に病院等に勤務。社会福祉の立場から、患者さんや家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る。
N	NGチューブ (エヌジー) MT (マーゲントューブ) *経鼻胃管のこと	鼻を経由して先端を胃に留置するチューブ全般を指す。胃内への水分や薬物 (輸液剤・経管栄養) の注入または体外へ誘導、排出 (イレウスの時) するために使用される。在宅では、多くが栄養剤注入を目的としている。
		付記 (ケホイト) チューブによる鼻腔の潰瘍(きず) 形成、下部食道括約筋の機能障害による胃内容物の口腔内逆流からの誤嚥性肺炎などがあり、PEGよりデメリットが多い。チューブの固定方法、気管への誤嚥防止のための工夫が必要！
	NM (エヌエム)	HDS-R (改定長谷川式知能評価スケール) が被験者への質問に基づいて認知症を評価するのに対し、このNMスケールは、日常生活の行動観察を通して評価を行う。従って検査場所を選ばず、意思疎通が困難な対象者に対しても行えるのが特徴であるが、評価者の熟練度によって結果に差が出てくるという難点がある。
		付記 (ケホイト) 別紙のNMスケールを参照してください。
O	OT (オーティアー)	作業療法士。医師の指示のもと、日常生活活動に関するADL訓練、家事や外出等のIADL訓練などの作業療法を主に行う者をいう。
P	PCA (ピーシーエイ)	患者自己調整鎮痛法 (Patient Controlled Analgesia)。疼痛コントロールが難しいケースにはPCAを用いて静脈あるいは皮下からモルヒネ剤を投与する。ボタンが3つある。①一定量持続注入できるように設定する。②疼痛時に追加投与する。③追加投与した場合、一定期間経過するまでは注入できない安全管理の仕組みになっている。
	PT (ピーティー)	理学療法士。医師の指示のもと、身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行わせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることを業とする者をいう。
	PTSD (ピーティーエスディー)	(心的) 外傷後ストレス障害。危うく死にそうになる、または重症を負うような出来事の後起こる、心に加えられた衝撃的なキズが元となり、様々なストレス障害を引き起こす疾患のこと。
		付記 (ケホイト) 体験した本人は無論であるが、家族も愛する人との突然の別離で喪失感が強い場合は、発症することがある。
Q	QOL (キューオーエル)	クオリティ・オブ・ライフの略で、直訳すると「生活の質」。人がどれだけ人間らしい生活、自分らしい生活をしているかを示す尺度的な概念。
		付記 (ケホイト) 特に、ターミナルケアはQOLに着眼してケアをする。
R	ROSC (アールオーエスシー)	心拍再開のこと。心肺の停止状態から首の動脈などに触れて脈が分かるほど回復した状態を指す。心拍再開は心肺停止状態から病院に収容されるまでにかかった時間が大きく影響する。
S	ST (エスティー)	言語聴覚士。医師の指示のもと、音声機能、言語機能または聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うことを業とする者をいう。
T	TB (テーバー)	結核のこと。主に肺感染が多く結核全体の90%を占めている、年齢に関係なく感染する。咳をすると結核菌が飛散し、それを吸い込むことで感染が起きるが、全員が発症するわけではない。治療法は確立されている。
		付記 (ケホイト) 古くて新しい病気といわれています。幼少期のBCG接種の免疫効果は10~15年といわれています。初期症状は風邪に似ているので、2週間以上咳・痰・微熱が続く場合は受診して、レントゲン撮影をする方が良いと思いますので、主治医に相談してください。近年、高齢者で過去に感染したが発病しなかった人が、体力の低下などによって発症する傾向が強くなっています。また、若い世代でも、結核に対する免疫力を持たない人が増加し、集団感染(大学など)に発展し社会問題になったこともあります。



V	VS (ブイエス) 俗に：バイタル	<p>バイタルサインのことで、生命維持に必要な徴候。医療上で人に対するバイタルサインとは、血圧・脈拍・体温・呼吸であり、意識レベルを加えることもある。</p> <p>体温：36℃～37℃が正常範囲で、小児は一般的に高く、高齢者は低い。  脈拍：安静時の一分間の脈拍は60～80回、100回以上は頻脈、60回以下は徐脈。遅すぎても、早すぎても意識レベルが低下する。  血圧：収縮期(上)は139 mmHg以内、拡張期(下)は89 mmHg以内、それ以上は高血圧で治療対象になる。低血圧は100mmHg以下。  呼吸：安静時は12～20回である。通常呼吸する時に使用していない筋肉を使用して呼吸をしている時は、異常の時です。  *下顎を動かしながら呼吸をして、呼びかけに反応しない。</p> <p>意識レベル：  GCS (グラスゴー) か、JCS (3-3-9度方式) で急性期の意識障害の評価。  GCS：合計点数が低くなるほど意識が悪いことを表す。世界で広く採用。日本では脳神経外科領域で用いられることが多い。  JCS：数値が大きいほど意識障害が重いことを表す。日本だけで広く普及。</p> <p>個体差・気温・時間・精神状態などにより変動があるので、利用者の普段の値を知っておくことが異常の発見になる。スポーツをしていた人は脈が遅い！熱が出ると脈拍が普段より速い！血圧は原疾患の影響・室温・精神状態など環境に影響を受けやすい。安静時の血圧を知っておくことが大切！</p> <p>付記 (ケブ イト) GCSは世界で広く採用。開眼 (E) 言語 (V) 運動 (M) から評価する。意識状態を簡潔かつ的確に表現できる。  *記載例：E2点、V1点、M2点 合計4点 (15点が良好)  JCSは覚醒度によって分けていて簡便であるが、意識障害を正確に評価できないという欠点を持つ。  *記載例：Ⅲ-200 (0が意識清明である)</p>
X	XP X-P (エックスピー)	<p>X線一般撮影 (俗にレントゲン撮影という) のこと。X線を用いた写真撮影のこと。診断に有用。</p> <p>付記 (ケブ イト) 現在は、レントゲンのデジタル化が主流。デジタル化は、放射線の被爆量も数分の1、医療機関でデータの共有化が図れる、現像液・定着液の有害物質も不要などのメリットがある。</p>

津島市民病院 救急医療部長 松永宏之先生監修  
高齡介護課在宅医療連携G 2013年3月作成